



稲穂

小樽市立稲穂小学校
学校だより No.10
令和7年12月24日
文責 校長 遠藤隆典

【学校の教育目標】

りこうで
たっしやで
ほがらかな
稲穂の子

稲穂小 WEB



チーム稲穂小の一体感を感じた2学期、ご協力に感謝いたします！

校長 遠藤 隆典

今日で2学期が終了しました。かつてないクマ対応が求められ、登下校時の送迎の協力など、保護者の皆様のご理解・ご協力に支えられました。様々なテトルの連絡を日々確認することは、大変だったと思います。連絡に目を通し対応して下さった保護者の協力により2学期も終えられました。感謝を申し上げます。ありがとうございます。

この4か月は様々な開校130周年記念事業等があり、あわただしく過ぎていきましたが、各場面で子どもたちは素晴らしい力を堂々と発揮していました。みんなで力を合わせていい姿を見せようと全学年で高め合う気持ちが高まっていました。頑張りや成長を感じた2学期でした。また、その力を引き出し高めながら伴走してきた教職員の姿も素晴らしく、児童・教職員・保護者・地域のチーム稲穂小の一体感を様々な場面で味わい、誇らしさを感じた2学期でした。本当にありがとうございました。

明日から、冬休みになります。子どもたちが、雪国ならではの冬らしさを味わったり、何か自分なりに時間をかけて探究したり夢中で取り組む経験をするなどして、充実した冬休みとなることを願っています。安全に気を付けよい冬休みを、そして、よいお年を！

子どもが主体的に学びだす授業づくりを目指して！

子どもに確かな資質・能力を育むためには日々の授業の充実が重要です。本校では「主体的に学びだす稲穂の子ども」をテーマに、その具現化を目指した授業研究に取り組んでいます。「主体的な学び」となる授業はどうあるべきかと、全職員で研鑽しています。

主体的な学びの授業展開は…、どんな姿が主体的なのか…と模索し、だれもが学びたいと思う特別支援教育の視点も…、試行錯誤のチャレンジを先生方で進めています。そんな中、UDLという授業づくりの考え方を皆で学び取り組んでいます。UDLは多様なあふれる学級の子もたちが自分から進んで学んでいく授業づくりの考え方で、特別支援教育の視点からも授業計画を見直していく方法です。目指す授業づくりに方向性を与えてくれています。難しいテーマですが、全職員で実践を重ね推進を図っています。

12月5日には公開研究会を開催し市内及び管内、道内遠方からも参加していただき、



多くの教職員で目指す授業づくりへの課題やUDLについて学び深めることができました。

「学習を自分事ととらえているか」、「学習で目指すゴールが明確か」、「個々が学び進められるには学びを選択できる展開も」など、学校全体で授業づくりのポイントが少しずつ共有できてきています。

今後も、全職員で研修を積み重ねながら、「主体的に学びだす稲穂の子ども」の具現化を目指した取組を進めていきます。



学び推進の標語といじめ防止標語に本校児童作品が選ばれました！

小樽市教育委員会

「いじめ防止標語」入選

少しでも

みんなのえがお

ふやしたい

三年 津谷 奏衣 さん

学び推進月間といじめ防止の標語に本校児童の作品が選ばれました！

学び推進の標語は管内小中学校から募集され、いじめ防止標語は市内全小中学校から応募された作品から選ばれたものです。

どちらも、学校生活の充実と子どもたちの健やかな成長にかかせない大切な「学び」と「楽しい学校」の実現を呼び掛けるものですが、心惹かれるとても素敵な標語になっています。

この標語は、管内及び市内の小中学校に配信され掲示されるなどして活用されています。

北海道学び推進月間標語
令和七年度後志教育局最優秀賞

学びから

僕の未来が

現れる

六年 麦田 墨 さん

自分事として真剣に向き合い、主体的に考え行動していける子に！

いじめのない楽しい学校づくり、これは現在、全ての学校で目指していることです。標語づくりや道徳や学級活動の中で話し合うなど、各校で様々に取り組んでいます。

その取組に、自分事として考えて取り組むうれしい姿がありました。今月のお昼の校内放送で、児童会のいじめ防止へ向けた取組として発表されたので、紹介いたします。

今回発表された取組は、以前に行われた道教委主催の「どさんこ子ども地区会議 in しりべし」において本校代表の6年の平岡京さんが提言した内容がもとになっています。

平岡さんは、「いじめのない楽しい学校づくり」について討議するこの会議に参加するにあたり、いじめ問題に自分なりに深く向き合おうと考えたそうです。そこで、6年生の友達が「いじめと思われること」をどう受け止め、どう考

えているのか知りたいと思い、クロームブックでアンケートを行い、いじめ防止には何をすべきか考えたそうです。クロームブックですぐにアンケートや意見を集約する発想は、さすがのGIGAスクール世代です。そして、今までの自分の感覚や考え方にたよらず、友達はどんな感覚を持っているのかを調べなおして、より考えを深めようと行動しました。自分事として主体的に考えて行動した素晴らしい姿だと感じました。

自分事として真剣に向き合った事は、強いメッセージとして伝わります。今回、児童会として新企画「ハッピープロジェクト」が提案されました。見た人がハッピーになる「うれしかったこと」などを、みんなで書き込んでいく取組です。稲穂小全体に、ハッピーが広がり、いじめのない楽しい学校づくりが進むことを期待しています。

稲穂小の子どもたちが、ここぞというときには、自分事として真剣に向き合い、主体的に考え深めて判断し行動していく力を発揮していく、そんな力を身に付けていくことを期待しています。

